

肺がん

死亡者数が最も多く、特に男性に多い。最大の理由は喫煙であり、たばこを吸う人が肺がんにかかる確率は、吸わない人の4～5倍にもなる。

肝臓がん

主な原因はB型及びC型の肝炎ウイルスの感染である。大量の飲酒の習慣や肥満、脂肪の取りすぎも、リスクを高める。

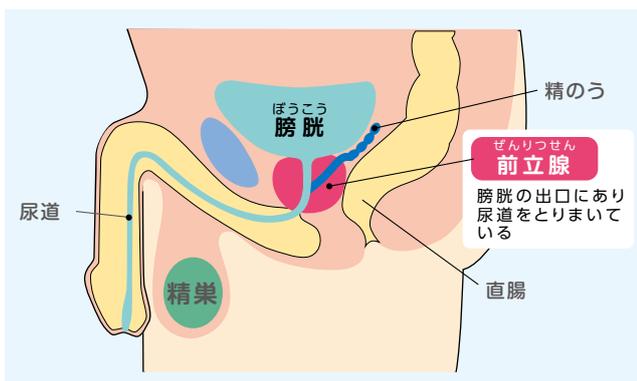
大腸がん

運動不足や肥満、赤肉の(過剰)摂取、大量の飲酒などが発病に関連している。

前立腺がん

男性

高齢化などが関連する。かなり進行した場合でも適切に対処すれば普通の生活を長く続けることができる。



胃がん

ピロリ菌の感染や食塩の取りすぎが発病にかかわっているといわれている。

乳がん

女性ホルモンのエストロゲンが深く関わり、初経年齢が早い、閉経年齢が遅い、出産歴がない、初産年齢が遅い、授乳歴がないことが関連すると言われている。また、飲酒、閉経後の肥満、運動不足などがリスクを高める。

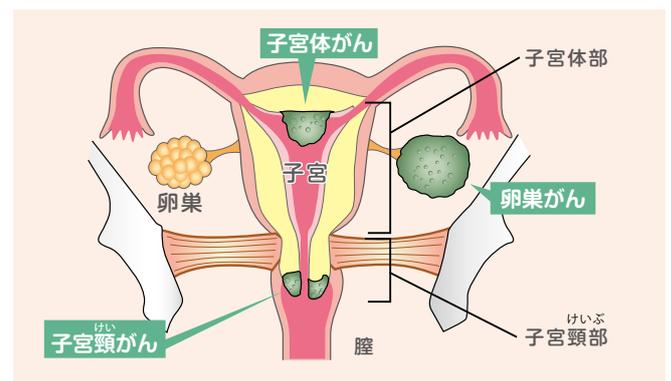
子宮がん

女性

子宮のがんには、子宮の入り口(頸部)にできるものと、子宮本体(体部)にできるものがある。頸部にできるがんはヒトパピローマウイルスへの感染が原因である。

他にも人数は少ないですが、次のようながんもあります。

- 骨にできるがん(骨肉腫)
- 口の中にできるがん(口腔がん)



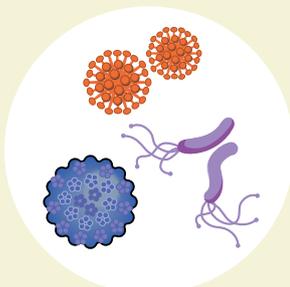
●がんは大人だけの病気？ ～小児がんのこと～

がんの中に「小児がん」という子どもがかかるがんもあります。小児がんは非常にまれで、原因も大人のがんと違い、生活習慣によるがんはほとんどありません。小児がんは早く見つけることが難しいと言われていますが、最近治療のめざましい進歩により、小児がんと診断された子どもたちの約7～8割は治るようになりました。主な小児がんは、白血病、脳腫瘍(のうしゆよう)、リンパ腫、神経芽腫(しんけいがしゆ)、胚細胞腫瘍(はいさいぼうしゆよう)・性腺腫瘍(せいせんしゆよう)などです。血液のがんである白血病やリンパ腫を除き、大人ではまれなものばかりです。

がんは生活習慣とかかわりの深い病気です



たばこ



感染
(一部の細菌・ウイルス)



お酒の飲みすぎ・食塩の取りすぎ
野菜・果物不足



運動不足
肥満

日本では、男性のがんの53.3%、女性のがんの27.8%は、ここにあげた生活習慣や一部の細菌・ウイルスへの感染が原因でがんとなったと考えられています。そのうち、大きな原因は、喫煙（男性：約29.7%、女性：約5.0%）と感染（男性：約22.8%、女性：約17.5%）で、その他のものは比較的小さいと報告されています。しかし、がんの原因についてはまだ分からないことも多くあります。

がんの発症率は年齢が上がるにつれて増加していきます



資料： 国立がん研究センターがん対策情報センター

食生活や生活習慣の欧米化や、長生きする人が増えていることなどを要因・背景として、日本ではがんにかかる人が増えています。年をとると細胞のミスコピーが増え、また、免疫機能が弱まってがん細胞が退治されにくくなるため、がんになりやすくなります。また、性別で見ると生涯では、男性の方が女性より多くなっています。喫煙や過度の飲酒など、がんの危険性を高める生活習慣が男性に多いことが主な原因と考えられています。